

「会長が学園理事」は利益相反

2.8 フォーラム前川喜平さん厳しく指摘

「越宗孝昌山陽新聞会長が加計学園理事というのは利益相反。追及すべきメディア側のトップが加計学園



内部の人間だという構図があること自体が問題。加計学園問題が国政を揺るがす問題になっている時に理事にいたというのは信じられない。辞めるべきである。公平性を疑われる。理事に居続けるというのはメディアの人間として感覚がおかしい」

2019年2月8日、岡山市で新聞労連と山陽新聞労働組合が開いたフォーラム「前川喜平さんと考えるメディアのあり方 これていいの？山陽新聞」の中で、元文部科学事務次官・前川さんの指摘です。

会長が理事では追及できない

前川さんは講演の中で、加計孝太郎理事長の会見については、「出来の悪い猿芝居」とぼささり。2015年2月25日に面談をしたとされる加計氏と安倍首相は、ともに面談を否定。官邸は、面談があったかなかったかの水掛け論にすりかえた上で、時間が経てば国民は忘れるだろうという作戦。しかし、面談がなかったとする証拠はない。面談があったとする立場からは、「そういう新しい獣医大学の考えはいいね」との首相発言を記した愛媛県文書という動かぬ証拠がある。水掛け論にならないはずなのに、この官邸の作戦にメディアも乗せられていると批判しました。そして、本当は地元紙である山陽新聞が追及すべきなのに、会長が学園理事ではしようがないと、山陽新聞の体たらくを

嘆きました。

また、前川さんは、権力の側がメディア、報道の「中立性」などと言うことに対し、「権力者が使う中立性という言葉にだまされてはいけない。わながある。権力は、権力批判を封じる論理として、中立性という言葉を使っている。権力側が使っている中立性という言葉は信用してはいけない」と警鐘を鳴らしました。

新聞の歴史にとって汚点

ジャーナリスト三宅勝久さんを加えたパネル討論で



は、まず、南彰新聞労連委員長が、近隣の中国新聞や同規模の新潟日報の紙面と比較しながら、いかに山陽新聞が加計問題を小さく目立たないように扱ってきたかを、問題発覚時や加計理事長の会見時の紙面を基に紹介。前川さんがこれを受けて、「新聞は公器。公共のために行うものだというのを忘れてはならない。国民にきちんと伝える役割を放棄してはいけない。新聞



社自体が隠ぺい体質を持っているのが問題」と、山陽新聞の体質を手厳しく分析しました。（裏面に続く）

三宅さんは「愛媛県文書が出てきた時、安倍首相はコーナーに追い詰められ、いつタオルを投げられるかという状態だった。しかし、山陽新聞は（猿芝居の加計理事長会見を助けて）安倍政権を救うという役割を果たした。新聞の歴史にとっても汚点」と批判しました。

労組は職能団体として自由を守れ

紙面について沈黙する多数派労組があることについて、前川さんは「労働組合の重要な役割として、労働者の権利を主張するだけではなくて、職能団体として、自分たちの立場、仕事、自由であるべき活動を守る役割がある」とし、「国民が保障されるべき自由というものを、どうやって確保するのか。その意味での役割は大きい」と労組の奮起を促しました。

400人の熱気、支援と共感の拍手

最後に組合方針を理由に印刷職場から排除された田



淵信吾山陽労組委員長と加賀光夫副委員長が登壇。「不当配転も憤りを覚えるが、それ以上に民主主義の担い手であり、社会の模範となるべき新聞社が働く者の権利を侵害していること、言論報道機関の中で自由な言論を封殺するような人事政策が行われていることが許せない」と訴え、支援と共感の拍手に包まれました。南労連委員長は「労働者のためだけでなく、県民・市民のために、しっかり報道機関の中で言論の自由を全うして、県民・市民の知りたい情報を担保していく。そういう闘いをしていきたい」と集会を締めくくりました。

フォーラムには、会場の岡山市勤労者福祉センターのキャパ300人を大きく超えて400人もの市民が県内外から駆けつけ、第二会場、廊下まで人があふれ

ました。それだけ、市民の加計問題への関心は深く、山陽新聞に立ち直ってほしいという期待があるということだと思います。「沈黙は金」ではありません。加計問題に限らず、紙面について自由闊達に語り合える新聞社を私たちの手でつくり、市民の期待に応えていくことを、第一労組の仲間に呼び掛けたいと思います。

フォーラムは、IWJがネット中継してくれました。「IWJ」で検索するか、下記サイトにアクセスすれば、その録画を視聴できます。ぜひご覧いただき、市民の熱い思いを受け止めてください。

<https://iwj.co.jp/wj/open/archives/441592>

2019年2月13日

山陽新聞労働組合ニュース
e-mail: sanyoshimbunroso@yahoo.co.jp